



大晦日の夜の
ありふれた奇跡

14:00開映

運命の皮肉

*Ирония судьбы, или
С легким паром!*

17:30開映

続・運命の皮肉

Ирония судьбы. Продолжение



2009年

12月23日(水・休) 14:00開会

会費 500円 (日本ユーラシア協会会員 300円)

1975年に作られてから今も年末に必ずテレビ放映され、ロシアの人なら知らない人はいない『運命の皮肉』。そして、2007年末に公開されロシア映画興行史上最大のヒットとなった『続・運命の皮肉』。それぞれの時代に国民の心をとらえた新旧2作を上映します。

14:00 ~ 『運命の皮肉』 モスクワに住むジェーニャは、毎年大晦日を友人たちとサウナで過ごす。36歳になった今年、大晦日の晩は婚約者のガーリャと過ごすはずだったが、友人たちと一緒に酔っぱらい、飛行機でレニングラード(現サンクトペテルブルグ)へ行ってしまう。それに気づかないまま、タクシーで自宅の住所を告げて連れて行かれたところは、モスクワとまったく同じ建物の同じようなアパート。鍵もジェーニャの持つ鍵で開いてしまう。しかしそこは、婚約者と大晦日の夜を過ごそうとしている若い女性ナージャの家だった……。

1975年/ソ連・モスフィルム作品/185分/提供=I.V.C.

出演=アンドレイ・ミャフコフ、バルバラ・プリルスカほか

脚本・監督=エリダール・リャザーノフ/共同脚本=エミール・ブラギンスキー/音楽=ミカエル・タリベルジエフ/撮影監督=ウラジミール・ナハプツェフ

17:30 ~ 『続・運命の皮肉』 30年後。ジェーニャは相変わらず毎年大晦日を友人たちとサウナで過ごしていたが、今年は息子のコースチャを代理で寄越した。悪友たちはコースチャに父の話をし、酔い潰してサンクトペテルブルグへ送り出す。コースチャが目覚めたところは、婚約者と大晦日の夜を過ごそうとしている若い女性ナージャの家だった……。

2007年/ロシア・第1チャンネル、モスフィルム作品/113分

出演=コンスタンチン・ハベンスキー、エリザヴェータ・ボヤルスカヤほか

監督=チムール・ベクマンベトフ/脚本=アレクセイ・スラボフスキー/音楽=ユーリー・ポテンコ、ミカエル・タリベルジエフ/撮影=セルゲイ・トロフィーモフ

◆両作品とも、ビデオプロジェクターによる上映、日本語字幕付きです。

主催・問い合わせ先 日本ユーラシア協会 ☎ (03) 3429-8231

会場 日ソ会館2F

世田谷区経堂1-11-2 ☎ (03) 3429-8231

